

上級で学ぶ日本語
三訂版

テーマ別

教え方の手引き

松田浩志

KENKYUSHA

目 次

『教え方の手引き』を使っていたいただく皆さんへ v

| | | | |
|--------|-------|-----------------|----|
| 第 1 課 | しる | 〈初めての雪〉..... | 1 |
| 第 2 課 | いたわる | 〈春の一日〉..... | 8 |
| 第 3 課 | ならう | 〈そば屋の先生〉..... | 15 |
| 第 4 課 | よみとる | 〈記事の裏側〉..... | 22 |
| 第 5 課 | さばく | 〈裁判員のもやもや〉..... | 28 |
| 第 6 課 | うやまう | 〈ガイドさんの宗教〉..... | 34 |
| 第 7 課 | ふせぐ | 〈並ぶ文化〉..... | 41 |
| 第 8 課 | もてなす | 〈ローソクの島〉..... | 48 |
| 第 9 課 | よびかける | 〈一茶の目〉..... | 55 |
| 第 10 課 | えらぶ | 〈自らの選択〉..... | 63 |
| 第 11 課 | いかす | 〈もったいない話〉..... | 70 |
| 第 12 課 | つなぐ | 〈折り鶴〉..... | 78 |
| 第 13 課 | たのしむ | 〈なりわい〉..... | 86 |
| 第 14 課 | きたえる | 〈健康な社会〉..... | 92 |
| 第 15 課 | いきる | 〈ひとつの地球〉..... | 99 |

『教え方の手引き』を使っていたいただく皆さんへ

1. 本書の概要

『テーマ別 上級で学ぶ日本語 三訂版 教え方の手引き』（以下、『手引き』）は、『テーマ別 上級で学ぶ日本語 三訂版』（以下、『上級』）を使っていたいただく皆さんに、より効果的に活用していただけるよう、次のような方針で書かれています。

1) 学習者の立場から、いかに要領よく学べるかを考える。

外国語を習得しようと願う学習者は、新規学習項目を提示されると、初級段階では生まれたときから使っている言語を参考にして、何々とよく似た言葉だ、表現だと考え、時にはそれが役に立ち、時にはそれが外国語学習の妨げにもなります。『上級』で新規に扱われる学習項目を学ぶ際にも、参考にするのがそれまでに学習した外国語の知識であることを除けば、事情は同じです。時にはより外国語が上達する助けになり、時には妨げになる点も変わりません。

そう考えると、上級段階の外国語を教える側が考えなければならないことは、新規学習項目の何が「新規」であり、それまでに学習した、似たような言葉や表現とはどこがよく似ていて、何が異なるかを明確にし、いかに要領よく学べるように提示するかということです。『手引き』は、その点に留意し、「学習者の立場から、いかに要領よく学べるか」と考え、書かれています。

2) 皆さんとともに、上級段階の外国語学習を考える。

『手引き』は、ひとりの日本語教育者の経験とこれまでに出会った教育現場の皆さんからの教えや学習者からの学びを現時点でまとめたものです。何をどのように扱えば、学習者がより要領よく学んでくれるかを考えてまとめたものです。

日本語教育はこうあるべきだと規範的な書き方を避け、日本語教育に携わっておられる皆さんにこう扱ってみてはどうでしょうかと提案し、ともに考える立場を重視しました。中には、「こんな簡単な」と思われるような説明もあるかもしれませんが、日本語教育に携わられる皆さんの経験もさまざまであるという観点から、あえて取り上げました。

言い換えるならば、『手引き』は、『上級』を使っていた皆さんとともに、やっとな定着しつつある日本語教育の分野をより良くするために一緒に考えましょうという呼びかけであり、もう少し視野を広げて言うならば、外国語学習で上級段階というのはどんな段階であり、ここでは何が必要とされるのかということ、学習者の立場から一緒に考えてくださいという提案です。

3) 国内外での日本語教育現場も視野に入れ考える。

ここまで「学習者」という言葉を使ってきましたが、そこには、日本国内とは事情の異なる学習環境で日本語を学ぶ人たちも含まれています。また日本語教育に携わられる「皆さん」の中には、外国で日本語を教える日本語を第一言語として育った方や、外国語として習得した方もいらっしゃることを視野に入れていきます。

そうした多様性のある日本語教育現場を考えたときに、「完了」「アスペクト」「連体修飾」などといった業界用語はあまり役に立たないだろうと考え、『手引き』では、極力使わないよ

うに努めました。日本で英語教育を受けた私たちが「分詞構文」「関係代名詞」「補語」などの言葉は、言葉自体を覚えても英語習得にはあまり役には立たなかったことを思い出していただければ、学習者、とりわけ非漢字圏の人たちには根づかないだろうとも考えた結果です。時に、まどろっこしいと思われる説明もあるかもしれませんが、それが理由だと理解していただければ幸いです。

こうした方針の下で、『手引き』は、教育現場で実際に活用されることを第一の目的として作成しました。国内外で日本語教育に携わっておられる皆さんへ学習項目の指導法を提案するに留まらず、日本語教育指導全体について共に考えるよすがになってくれればと願い、『手引き』にまとめた提案が、共有できることは共有し、改善すべきことは改善するという現場での作業につながり、日本語教育全体にとって少しでも益になれば幸いです。

2. 『手引き』の構成

次の「各セクションの詳細」で述べるように、5つのセクションから構成されています。必要に応じて、〈答えましょう〉〈まとめましょう〉〈使いましょう〉の後に、[解答例]がついています。これはあくまでも「模範例」ではなく、考えられる解答のひとつを例として書き添えたものです。[解答例]はすべて、学習者が既に学習した項目を使って、こんな答えが可能だという立場で書かれています。

3. 各セクションの詳細



テーマと本文

それぞれの課の初めに設けられたセクションで、本文は、と始まる〈読みましょう〉の概要説明、〈一緒に考えましょう〉の活用案、テーマの解説があり、そして、授業は、と続けて、実際の授業でテーマをどう扱うか、テーマの関連事項として、学習者と一緒に何が考えられるかが具体例とともに取り上げられています。担当される学習者の構成メンバーや日本語力に合わせて応用し、テーマの理解を深めることが目指されたセクションです。

新しい言葉

〈新しい言葉〉のセクションでは、『上級』のそれぞれの課の初めに並べられている新規学習語・表現の中のいくつかを取り上げています。例えば第1課では、「～かのように」という言い方が取り上げられています。学習者が、辞書を使って調べても、なかなか行き当らなかつたり、掲載されていなかったりする項目という理由で取り上げ、例文とともに、何をどう伝えようとして使われる言い方なのかという点が簡単に説明されています。

「～といわず～といわず」という言い方も取り上げています。上と同じ理由からですが、それにとどまらず既習項目の中の、あるいは、これから『上級』で学ぶことになる似たような表現がどこにあるかという点が添えられています。

そのほか、辞書の見出しとして簡単に見つけ出せる語・表現であっても、辞書の説明があまり

にも複雑、あるいは、広範囲だと思われる語・表現も取り上げ、〈読みましょう〉の理解や日本語教育の上級段階ではどこに焦点を絞って扱えば良いかという点から、簡単な説明が添えられています。

全体的に、できるだけ例文を添えるようにしましたが、そこで使われている語・表現は、学習者にとっては未習の語・表現がたくさん使われていますので、教室での授業には、それを適宜置き換えて使う必要があります。

(『中級から学ぶ日本語 三訂版 教え方の手引き』の初めに、名詞、形容詞、動詞、副詞など品詞別に、日本語教育ではそれをどう扱えば良いかという説明がありますので参考にしてください。)

❓ 答えましょう

このセクションは、A、B に異なる種類の設問を並べ、本文の内容がどれだけ理解できているかを学習者、教える側のお互いが確認するためのセクションです。〈読みましょう〉は、第1～7課が4つの段落、第8～15課が5つの段落で構成されていますが、〈答えましょう〉Aは、それに対応して次のような質問構成になっています。

第7課までは、設問の最初に、それぞれの筆者がどんな人だと考えられるかを問い、その後、4つの段落に対応して1問ずつ問いが準備されています。後半の第8課、9課、11課、15課では本文中に筆者に関する具体的な情報がなく、筆者以外のことについて尋ねています。後に続く問いは、原則として第7課までと同じように段落に対応した問いが並べられています。

〈答えましょう〉Bには、〈読みましょう〉全体にかんする重要な点についての質問が設けられています。〈読みましょう〉の中にはっきり書かれていない場合もあり、学習者が全体から判断して答える問題で、そうした練習を通して読む力を伸ばすことを目指しています。

〈答えましょう〉には、もうひとつの目的があり、それはここで質問や答えをやり取りすることで、自分の考えをまとめて「話す練習」をすることです。第1課を例に、A、Bでどのように話す練習をするか、その例を下にあげます。

[〈答えましょう〉Aの運用例]

教員： この文を書いた人はどんな人だと思いますか。[設問1]

学習者： 留学生で、雪の降らない暑い所から来た人です。

教員： そうです。初めて雪を見て「これが雪か」と思ったそうですが、どんな気持ちだったと言っていますか。[設問2]

学習者： 空から次々に落ちてきて、手のひらに触れるとすぐに消えていくので不思議な気持ちになりました。

教員： そうでした。次の日の朝、大学へ行く道が「いつもとはまるっきり違っていた」というのは、どうしてですか。[設問3]

学習者： 道や家の屋根には雪があるし、それが朝の光できらきら輝いているので、いつも見ている景色とは違うと思ったからです。

教員： そう、筆者はそう言っていますね。じゃあ、次の質問です。雪が何日か降り続きましたが、その後で筆者は、雪に「もうひとつの顔」があることを知ったと言い

ます。「もうひとつの顔」という言い方で、何のことを伝えようとしていますか。[設問4]

学習者：日本に来る前には、絵や動画で雪を見たことがあり、雪のことを少しは知っていますが、雪で命を落とす人がいること、雪に押しつぶされそうになって生きている人がいることは、知りませんでした。その知らなかったことを「もうひとつの顔」だと言っています。

教員：そうです。多分驚いたでしょうね。そのことから、「何をどう利用したところで」何が、どうだと思ったのですか。[設問5]

学習者：インターネットなどを使っても、物事の全部を知ることはできないのだと思いました。

最初のうちは、学習者が上に書いたようにすらすらと答えられるとは思えませんが、不足な場合は「もうありませんか」「それだけですか」といった質問を補い、答えてほしいように導く必要があります。

だいたい受け答えができるようになった時点で、今度は、学習者同士でも同じようなやり取りをさせて、受け答えの練習をします。そのとき、1～5問を一緒には無理なので、段落ごとに区切って練習するのがいいでしょう。

上の例にもあげていますが、質問の受け答えに、「そうですね」「では」「じゃあ」などといった表現を加え、やり取りが続くように、教える側と学習者がやり取りを練習する最初の段階で例を示しておくのも、練習をしやすくする方法だと思います。

『上級』には、特別に「会話の練習」を目指した項目は設けていませんが、それは、学習現場でのこうしたやり取りが、真に「会話力」を伸ばすことになるとの考えからです。学習者が上のやり取りがじゅうぶんにできるようになり、〈読みましょう〉の理解もできたと思った時点で、〈答えましょう〉Bに移ると円滑に進むと思われま

まとめましょう

このセクションは、段落ごとにキーワードを与え、それを中心にまとめてもらうように考えられています。『手引き』にある【解答例】は書き言葉になっていますが、それは、最終的には、文章にしてまとめを書かせることを目指しているからです。キーワードを紹介しながら、まず口頭で答えを導き出し、それを後で書き言葉でまとめさせることによって、話し言葉と書き言葉の違いにも注目できると思います。

使いましょう

それぞれの課に設けたこのセクションは、取り上げた文法項目をどのように、どこまで教えればいいのかという提案をしているセクションです。**形**と**用法**に分けて説明しています。

形では、練習する項目で「動詞」や「形容詞」がどのような形で使われるかをあげていますが、よりわかりやすくするために、「～形」という言葉を使わずに、**動詞**や**形容詞**などの具体的な言葉を使っています。そして、そこで使われた形を、後に続く**用法**の例文の中で使っています。

用法では、新しい学習項目は、何を伝えるための道具で、それを使うことによって相手に

どんな思いや考えが伝わるかといった立場からの説明を試みています。その上で、どこを焦点に、学習者が受け入れやすいように教えるかということを考えて、このように教えてみてはという提案をしています。必要に応じて、これまでに学んだ学習項目も取り上げて、練習をする項目との関係を述べています。これまでに学んだ、あるいは、これから学ぶことになる類似表現やそれとの違い、また、もし余裕があれば触れておいても良いなどといった点は **参考** として添えられています。また、例文の中には「×」や「？」の記号を付けたものがありますが、それぞれ「正しくない文」、「間違っていないが、受け入れにくいと考えられる文」を示しています。

〈使いましょう〉の授業は、口頭でのやり取りを進めると話す力の向上につながります。また、宿題として〈使いましょう〉の答えを書いて提出させ書く練習にもつなげます。

4. 付属 CD について

CD には『上級』各課の〈読みましょう〉の音声収録されています。必要に応じて、教室でお使いいただければと思います。また、学習者の予習・復習のために、CD と同内容の音声を研究社 HP (<http://kenkyusha.co.jp>) の「音声ダウンロード」のページから無料でダウンロードできるようにしました。

以上、『手引き』の概要とその目指すところをまとめました。冒頭にも書きましたが、実際に教育現場で『上級』を使われ、こう教えた方がより受け入れやすく効率的だなどという点は、是非、ご教示いただき『手引き』がより良い日本語教育を考えるよすがになればと思います。



テーマと本文

本文は、本物の雪を見た事のない留学生が、雪深い地域での生活を通して、雪と人間生活の一端を知り、物事を知るということを考えさせられる。手近にあるインターネットなどを使った机上の作業では、物事の一面しか知ることができないと体験を通して理解するという筋立てになっています。

テーマは、「物を知る」とはどういうことか、また、物を知ろうとする姿勢や方法のあるべき姿はどうかを取り上げ考えます。

授業では、本文の内容についての考えを問うと同時に、同じような内容の経験を共有し、一面的、表面的な知識が日常生活に及ぼす影響、特に、マイナス面を考えたいと思います。それが個人的な視野を狭めること、また、大きな問題となっている剽窃などにつながる危険性もあるので、はというところまで考えられれば良いと思います。

〈一緒に考えましょう〉の設問を利用して、初めての体験、そしてそれを通して何をどう思ったか、また、学習者も活用するであろうインターネットなどについて情報交換をして、本文とテーマへの導入とするといいでしょう。



新しい言葉

- やれやれ(と)：大きく二つの意味で教える。
 1. 時間と労力をかけて、やっと何かの目的が成就できて満足だという気持ちを伝える。
 - 〔例〕・やれやれやっと着いた。
 - ・やっと思っていたような物ができて、ひとまずやれやれだ。
 2. ある目的を目指していたが、「無理だった、無駄だった」という落胆した気持ちを伝える。
 - 〔例〕 やれやれ1年やった結果が、これか。
 - (思いに) とらわれる：何かの理由で、「少しの間動きや考えが止まってしまう」、その結果、より大切なことが見えなくなったり、しなければならぬことができなくなったりするという意味。
 - 〔例〕・目先の利益にとらわれていると、商売の本質が見えなくなってしまう。
 - ・日々の雑事にとらわれて、本来の仕事がなかなか先に進まない。
 - ~といわず~といわず：代表的な部分をあげておいて、「残りすべても~だ」と伝える言い方。
 - 〔例〕・この辺りは昼といわず夜といわず、人通りが絶えることがない。
 - ・冬になると、山といわず川といわず、何もかもが白いボールで覆われる。
- 第4課〈使いましょう〉Cに「~といい~といい」というよく似た表現の練習があるが、少し使われ方に違いがある。その点の説明は、第4課〈使いましょう〉Cを参照。
- (立ち) 尽くす：ほかの動詞と一緒に使って、次の二つの意味で使うが、2番目の意味で使う

ことが多い。

1. 同じ状態をずっと続けたままでいる。 立ち／待ち＋尽くす
 2. すっかり、最後までやってしまう。 食べ／使い／話し／やり＋尽くす
- **すがすがしい**：学習者にとっては意味がわかりにくい言葉の一つ。気に障るような物や事がなくて、体や心が洗われるような様子になることを教える。
 - 例 ・昨日までの雨が上がり、今朝はすがすがしい気分だ。
 - ・問題が解決して、今朝は目覚めがすがすがしかった。
 - **まるっきり**：打消しの気持ちを表す言葉と一緒に、「全然／まったく～ない／無理だ／異なる」という意味で使う。
 - 例 ・途中から出席したので、会議の内容はまるっきり理解できなかった。
 - ・想像していた物とはまるっきり違う物が出てきて、驚いた。
 - **そっと**：次の二つの意味で教える。
 1. (騒ぎになるといけないので、周りに) 気付かれないように何かをする。
 - 例 ・夜遅くなったので、物音を立てないようにそっと部屋に入った。
 - ・夜のパーティーでお金が足りないと困るだろうと、息子の上着のポケットにそっとお金を入れておいた。
 2. (困らせたり邪魔になるといけないので、) 何もしないで、今のままの状態にしておく。
 - 例 食事の時間だが、疲れているようなのでそっとしておいてやることにした。
 - **～かのよう**：実際にはそうではないが、「まるで何々と同じ様子だ」と伝えたい内容をわかりやすくするために使う。
 - 例 ・納棺された父は、まるで眠っているかのように穏やかな顔をしていた。
 - ・そこは、生き物すべてが動きを止めたかのような静寂の世界だった。
 - **～を通して**：人の話や道具／器具、あるいは自らの体験／経験などが情報源になって何かを知るという意味。
 - 例 ・友達の噂話を通して、大好きな先生の転勤のことを知った。
 - ・今日の長官談話の記事を通して、今度の事件を知ったという人も多かった。
 - ・2年間の外国生活の体験を通して、異文化理解の難しさを知った。
 - **～でしかない**：大きなことだと考えるかもしれないが、じっくり考えてみれば、その実態は「本当にささやかなことだ」と伝える言い方。
 - 例 会社を辞めてから、自分がこれまでやって来たことは、誰にでもできることではなかったと心の底から思った。
 - **つくづく**：物事に時間をかけてゆっくり見(直し)、反省をしたり、本当にそうだと心から感じると伝える言い方。
 - 例 ・これまでの人生を振り返ってみると、無責任なことを続けてきたのではないかとつくづく思われてしょうがない。
 - ・退院した夜、庭で鳴く虫の声を聞きながら、生きていて良かったとつくづく感じた。

？ 答えましょう

【解答例】

A

1. 雪の降らない温かい所で育った留学生です。
2. 雪を初めて見たので、信じられないような不思議な気持ちを表しています。
3. 窓の外に見える景色が白い世界に変わってきらきら輝いていたし、また、外へ出ると空気もすがすがしく感じられました。
4. 今まででは知らなかった、雪が人に厳しい生活を強いるということです。
5. インターネットや本などを使っても、知ることができるのは表面的、一面的なことだという意味です。

B

筆者は、日本に来る前に、雪景色やスキーの様子を（インターネットなどを使って）知っていたつもりでいました。しかし、それが雪だと思っていたら、自分の雪に対する知識は、人を苦しめる雪のことは知らないままの狭いものだったという意味です。

📖 まとめましょう

【解答例】

A

1. 図書館で勉強しているときに、生まれて初めて、雪が降るのを見た。
2. 雪が降った次の日の朝、いつもの世界が全然違って見えて、雪の気色に心がときめく思いがした。
3. 雪が降る場所での冬の暮らしは、命を落とすこともある厳しい生活だと雪の別の一面を知った。
4. 初めての雪を経験して、物を知るとはどういうことかを考えさせられ、自分の知識が狭いものだと思った。

B

日本に来て初めて雪を見、白くなった世界を見て、心がときめく思いがした。しかし、雪の降る世界での冬の暮らしは、命を落とすことも多く、雪の厳しい一面も知った。その経験を通して、知っていると思っていたことでも、いろいろ違った面もあり、物を知るとはどういうことなのかと考えさせられるきっかけになった。

👉 使いましょう

A 「～ことなく」

形 **（動詞）** 無視する／嫌な顔をする＋ことなく

用法

この言い方には、いろいろな使い方がありますが、〈使いましょう〉Aでは次の例のような使い方を練習します。

（例1）・新しい理科の先生は、どんな質問をしても、無視することなく答えてくれるので、とても人気がある。

[つまらない質問なら、嫌な顔をするのが普通だが答えてくれる]

- ・近所の自転車屋さん、よそで買った自転車のパンクでも、嫌な顔をすることなくニコニコして修理してくれる。

[普通なら、嫌な顔をするのに修理してくれる]

例文のように、「～ことなく」を使う人が、「誰もが、面倒だから、自分のプラスにはならないから、普通はしないだろう」と思っていることを、「意外にも面倒がらずにやる」という気持ちを伝える用法の練習です。

上で、この言い方には、いろいろな使い方があると書きましたが、「意外にも／意外かもしれないが」という気持ちを添えて結果を伝える用法がそのひとつです。本冊〈使いましょう〉Aの例文3がそうです。「～こともなく」という形で使われることも多いです。

- (例2)・入社したばかりの社員が、上司に頼まれた仕事を、時間をかけること(も)なくやり終えた。

[普通は難しいことを意外にも簡単に仕上げた]

- ・急に入院することになった父は、楽しみにしていた孫の顔を見ること(も)なく亡くなった。

[会いたかっただろうに、予想外に早く亡くなった]

【解答例】

1. 普通は電車やバスが遅れることもある。
⇒日本の交通機関は、遅れることなく、時間通りなので、驚いた。
2. 普通は誰かにそうだんするものだ。
⇒新しく入った社員は、わからないことがあっても、せんばいにそうだんすることなく、自分でやろうとするから間違いが多い。
3. 若いときの母は貧しかったので、休むことなく、働いたそうだ。

B 「～たところで」

形

動詞

積まれ／勧められ／根回しし／落ち／知られ+たところで

用法

周りは、できる／大丈夫だと思っているようだが、たとえ少々のことをしてみても「それはできない／無理／不可能だ／大変なことになる」と伝える言い方です。「できない／無理／不可能だ／大変なことになる」と判断する理由は、それが可能になるような条件が整わないと思うからです。次の例文を見てください。

- (例1)・いくらお金を積まれたところで、明日までに仕上げるのは不可能だ。

[これから材料をそろえることは無理だから]

- ・どんなに勧められたところで、母をひとりしておくわけにはいかない。
[母の横に面倒を見てくれる人がいなければ、母はひとりでもできない]
- ・今からどれだけ根回したところで、一度火のついた騒動は簡単には納まらない。
[騒動は始まったのだから、しばらく大変な状態が続く]

上の説明とは反対に、周りはできない／大変なことになっていると思っているようだが、たとえ少々
の困難は伴っても、「できる／問題ないだろう」と伝えるために使う用法もあります。次の例文
を見てください。

- (例2)・今の商品の売れ行きが落ちたところで、会社がどうこう言うことはない。

[少々落ちても、そういう場合に備えて、じゅうぶんな準備がしてあるから大丈夫]

だ]

- ・父親に知られたところで、大騒ぎになることはないと思う。
[前もって母親に話して、OKがもらってあるから問題ない]

参考

1. 「～たところで」を使うときに、「できない／できる」と判断するには、話し手の経験が大きく作用しているようです。次の例を見て、練習するときの参考にしてください。

- (例) ・今からでは、タクシーを使ったところで、もう間に合わないだろう。
[自分にも同じような状況があったが、間に合わなかった]
・手伝いに行ったところで、事情がわからなければ役には立たない。
[一度手伝いに行ったが、事情がわからなくて、かえって迷惑をかけた]

- (例) ・少しくらい強い台風が来たところで、ここにいれば安全です。
[これまででも何回か大きな台風が来たが、問題はなかった]
・今回できなかったところで、すぐに部署を変えられることはないだろう。
[部長は、部下の仕事を長い目で見てくれるから]

練習するときには、話し手がどう思って「無理だ」「大丈夫だ」と伝えようとするのかを具体的に考えながら練習するとわかりやすいでしょう。

2. よく似た形の、「名詞＋にしたところで」という言い方を、第10課〈使いましょう〉Dで練習します。

【解答例】

1. 熱心に勉強すればじょうずになると思うかもしれないが、そうではない。
⇒ 50歳を過ぎた母が今から始めたところで、フランス語ができるようになるとは思えない。
2. 先生に頼めば受けられると思うかもしれないが、そうではない。
⇒ A: 試験を受けさせてもらえるよう、先生にもう一度頼んでみたら。
B: いくら頼んだところで、試験に遅れたのは僕が悪いんだから、受けられるようになるとは思えないよ。
3. 心配しているようだが、大きな台風でもだいじょうぶだ。
⇒ この建物は特別強く建てられているから、少しくらい大きな台風が来たところで、心配することはない。
4. せんばいに頼んだところでお金がないと言っていたので、状況は変わらないだろう。

C 「～限り」

- 形** (動詞) 続けている／いる＋限り
改善しない／変えない＋限り

用法

今の状態・状況が続けば、何も好転しないから、「変えるべきだ」と伝える言い方です。次の例文を見てください。本冊〈使いましょう〉Cの例文1, 2に当たる使い方です。

- (例1) ・今の生活を続けている限り、誰も手助けしてくれる人はいない。
[手助けが要るようなら、今の生活は改善すべきだ]
・ここにいる限り、新しい作品のアイデアは浮かばない。
[新しいアイデアを求めるなら、生活環境を変えるべきだ]

同じように「今の状態・状況が続けば」という条件で、後ろが「問題はない」と伝えるときに

も使われます。〈使いましょう〉Cの例文3がその使い方です。次の例2は上の例1と対照した例です。

- (例2)・今の生活を続けている限り、[何も大きく変わることはないから] 将来も心配するようなことはない。
・ここにいる限り、[今の生活環境が変わることはないから] 安全だから安心していい。

ここまで説明した用法で、「～ない限り」という形もよく使われます。

- (例3)・今の生活を改善しない限り、[周りが信頼しないから] 誰も手助けしてくれないだろう。
・生活の場所を変えない限り、今住んでいる家を使い続けても [誰からも文句は出ないから] 問題はない。

【解答例】

1. じしんが起こったときは、みんなと一緒にいなければ、心配だろう。
⇒ じしんが起こったときでも、みんなと一緒にいる限り、心配することはない。
2. じっさいに行ってみれば、その風景の良さがわかるだろう。
⇒ インターネットで見える風景を見ても、じっさいにそこへ行ってみない限り、本当の良さはわからない。
3. 家族と一緒に生活している限り、本当の社会は見えない。

D 「～ことはあっても、(～ない)」

形 (動詞) くびになる／嫌われる／認められる／好かれる＋ことはあっても、昇進する／聞いてくれる／失敗する／嫌われる＋ことはない

用法

ある状態が続いたり、何か嫌がられるようなことをすれば、悪い結果になる可能性が高く、良い結果は期待できないと言って、相手に「何かをしない方がいい」と伝える言い方です。例文を見てください。

- (例1)・今のような仕事ぶりでは、くびになることはあっても、昇進することはない。
[今のままの仕事ぶりを続けなくて、改めた方がいい]
・これ以上先生に文句を言えば、ますます嫌われることはあっても、真剣に話を聞いてくれることはない。
[今の態度を続けなくて、改めた方がいい]

反対に、ある状態を保ったり、何か良いことをすれば、良い結果になる可能性が高く、悪くなることはないと言って、相手に「何かをした方がいい」と伝える言い方になることもあります。

- (例2)・今のままで努力を続けていれば、周りから認められることはあっても、失敗することはありません。
[続けた方がいい]
・人に優しくしていれば、好かれることはあっても、嫌われることはない。
[今のままですていた方がいい]
・先生の説明を守ってやれば、少くく失敗することはあっても、大きなミスをすることはない。

[先生に言われたとおりにする方がいい]

[解答例]

1. お酒を飲み過ぎない方がいい。
⇒ お酒を飲み過ぎると、友達をなくすことはあっても、親しい仲間が増えることはないから
気をつけた方がいい。
2. できるだけ運動した方がいい。
⇒ 運動をしないと、医者のお世話になることはあっても、今より健康になることはない。
3. 今の会社にいれば、働き過ぎで病気になることはあっても、人生に夢を持てることはない。